

別れの季節

飄

々

広報委員

岡山 智亮

私の娘が3年間通った幼稚園を卒園した。テレビの中では卒業・卒園のシーンを観ることはあるが、実体験としては、自分の大学卒業以来20年ぶりである。しかも今回は人生で初めての親の立場としての参加であるため、当日をどういう感情で迎えるのか想像もできなかった。もちろん3年間での娘の成長を思うと感慨深くもなるし、幼稚園の先生方にも感謝の気持ちでいっぱいになる。ただそれだけではない思いもよらない未知の感覚にとらわれるのではないかというスリル感いっぱい当日を迎えた。当日まずチェックするのはビデオカメラの動作確認。わが家では行事といえば主にスマホが活躍するため、ビデオカメラの立ち位置はプロ野球でいうところの大リーグ通算○本塁打の期待の外国人助っ人状態である。使い方がわからなければ宝の持ち腐れなのである。娘の大切な人生の1ページなだけになんとかビデオカメラに記録を残したいと思い取扱説明書を念入りにチェックした結果、無事に記録を残すことができた。卒園式の内容としては、子供たちが当日まで何回も練習してきたであろう入退場の様子、卒園証書の受け取り、歌と見事な完成度でその光景はやはり涙を誘うものであった。ただそれに加えて年長クラスを担当された先生方の言葉を聞くと1年間どんな気持ちで子供たちを見守ってきたかが手に取るように伝わってきた。中には子供たちへの教育方法として葛藤しながらの1年であったとの話もあり、日々子供の成長を見守る仕事の偉大さを感じさせられた。式の後には園庭で各々の最後の時間を過ごす。仲の良い友達やお世話になった先生を見つけては「写真撮って!」とせがんでくる姿や、園庭の遊具などで友達と全力で遊んでいる娘を見るとつくづく成長を感

じさせられた。ただ、卒園式が終わった後に娘に感想を聞くと一番返ってくる言葉が「楽しかった!」の一言であった。どうやら練習してきたことが自分の思い通りであったようで、ものすごく満足気な顔で私に感想を伝えてきた。親としてはわが子の成長をまざまざと見せつけられ涙ながらにビデオカメラを構えていたが、まだまだそこは健気な子供の姿であった。

話は変わるが、3月は診療のなかでもいろいろな別れがある。関わりを持たせてもらった患者さんの転居によるお別れ、また今年はスタッフとの別れも多かった。別れというと寂しい気持ちにもなるが中には喜ばしい別れもある。小学生のころから見てきた子たちが大学に合格したことや就職が決まったことを聞くと嬉しい気持ちになる。特に、不登校で悩んでいた子たちの進学が決まったと聞けたときには一緒に悩んできた分、自分のことのように嬉しくなってしまう。昨今の社会事情を考えると自分が学生の時と比べるといろいろ大変であろうと思うが、全力で頑張ってもらいたいと思う。

私自身40代半ばであるが今までの人生の中でいろいろな別れを経験してきた。振り返って思い返したときに今の自分にとって大切な別れの記憶は色鮮明に残っているものである。

もちろん別れには再開もつきものであるし、出会いがなければ別れも存在しないわけではあるが、別れの瞬間というものは特に感情を揺さぶられる場面ではないかと思う。今回、卒園という別れを経験した娘もこれから先の人生でさまざまな別れを経験すると思うが、別れによって彩られていく娘の人生を楽しみに思う今日この頃である。